

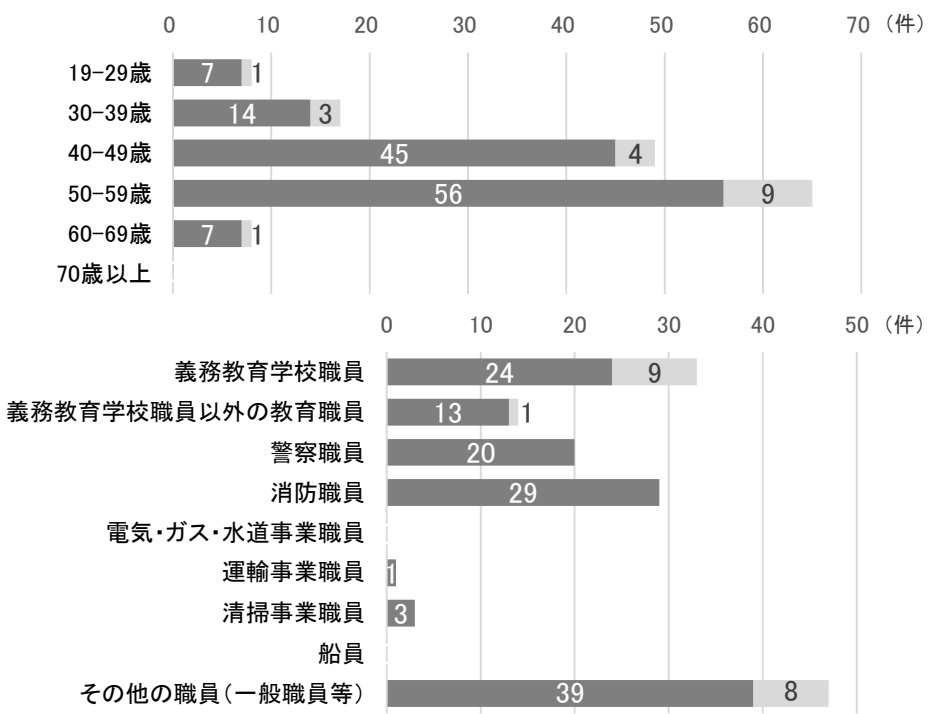
# 平成29年度 地方公務員の過労死等に係る公務外認定事案に関する調査研究（概要）

## 1. 内容

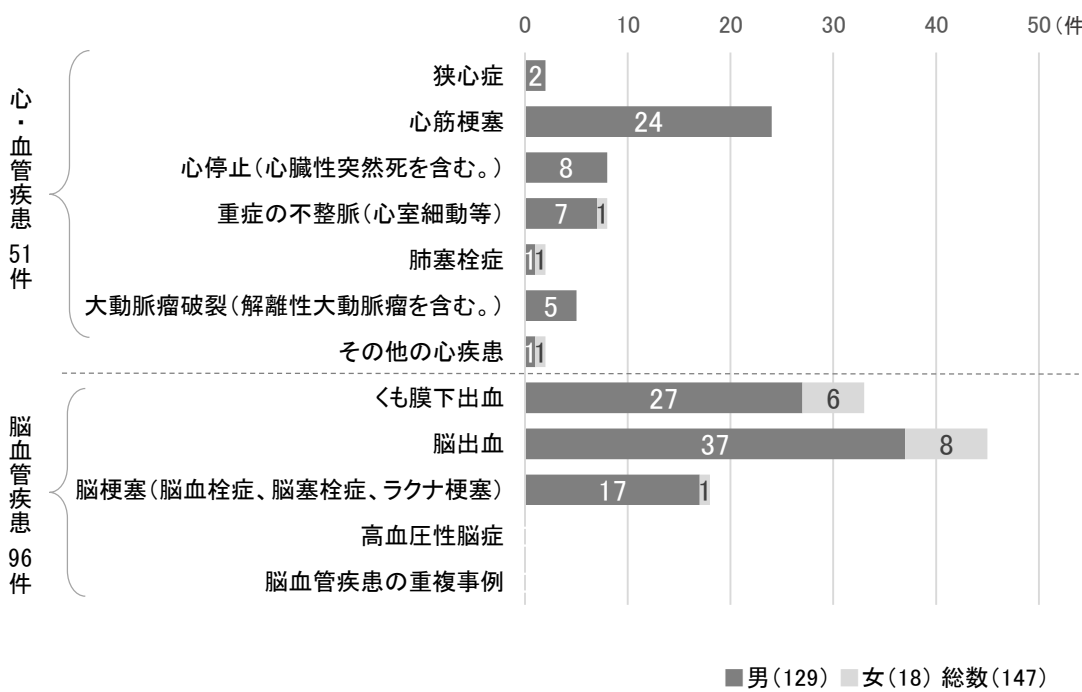
地方公務員災害補償基金が平成22年1月から平成27年3月までの期間に、公務外と判断した事案（386件）※について、公務外認定理由書を基に事案の収集・データベース構築・集計（クロス集計）・分析を実施した。 ※ 脳・心臓疾患147件、精神疾患239件

## 2. 主な分析結果

脳・心臓疾患 図1-1 発症時年齢及び職種の事案数



脳・心臓疾患 図1-2 対象疾患別の事案数

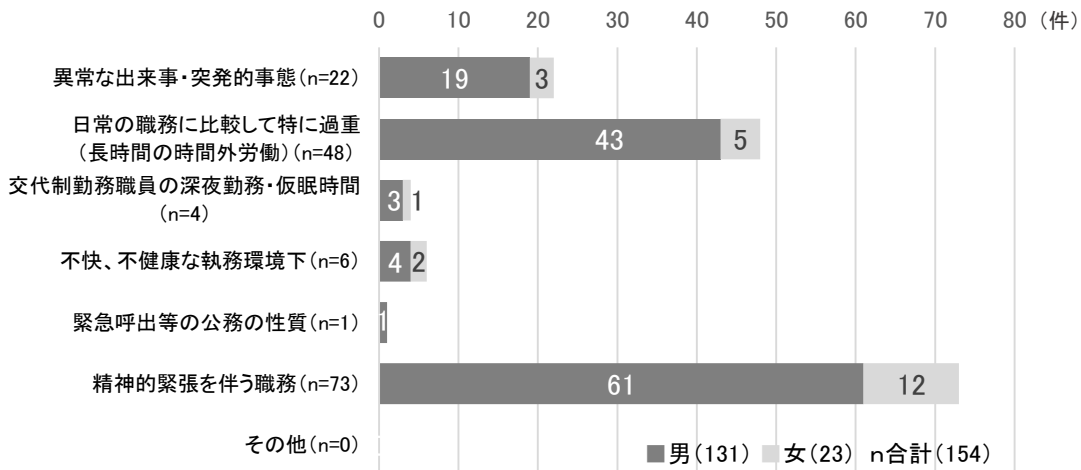


発症時年齢では、「50～59歳」が最も多く65件、続いて「40～49歳」が49件などであった。

職種別では、「その他の職員（一般職員等）」が47件、「義務教育学校職員」が33件、「消防職員」が29件、「警察職員」が20件などであった。

対象疾患別では、「脳出血」が最も多く45件、続いて「くも膜下出血」が33件、「心筋梗塞」が24件、「脳梗塞」が18件などであった。

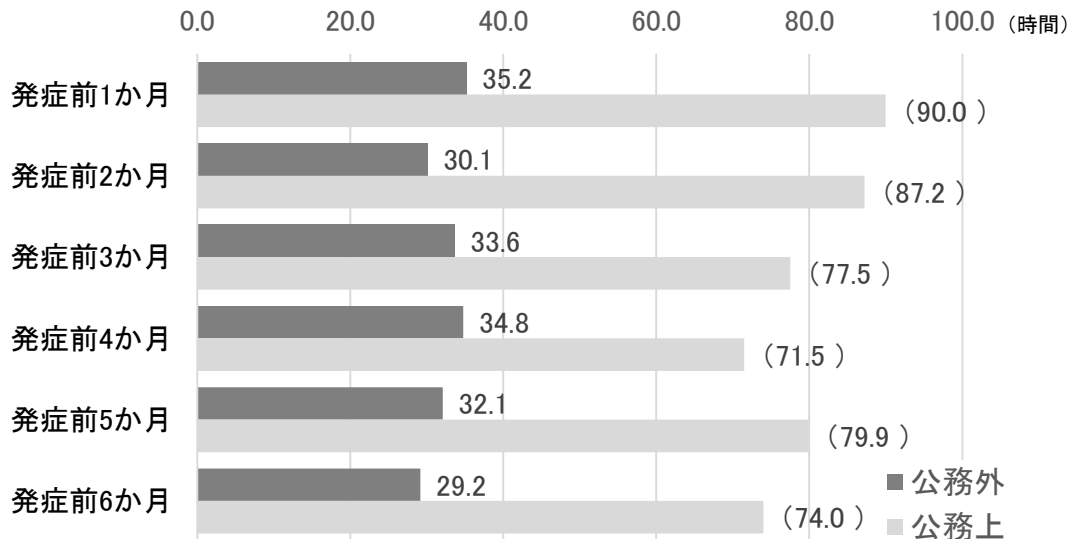
脳・心臓疾患 図1-3 職務従事状況別の事案数（重複回答）



職務従事状況（重複回答）154件の内訳は、「精神的緊張を伴う職務」が最も多く73件、続いて「長時間の時間外労働」が48件、「異常な出来事・突発的事態」が22件などであった。

(注) 1件の事案に複数の職務従事状況(n)がある場合は、それぞれを1件としてカウントしている(重複回答)。

脳・心臓疾患 図1-4 発症前概ね6か月間の時間外労働の平均値



時間外労働時間について、  
公務外事案（上段）は  
① 発症前1か月の平均値 35.2時間  
② 発症前1～6か月間の平均値 32.5時間

(参考)  
公務上事案（下段）は  
① 発症前1か月の平均値 90.0時間  
② 発症前1～6か月間の平均値 80.0時間

(注) 上段は、公務外となった事案の発症前各月の時間外労働時間について、確認できた事案を集計し平均したもの。  
下段は、平成28年度「地方公務員の過労死等に係る公務災害認定事案に関する調査研究」における同平均値。

図2-1 発症時年齢及び職種の事案数

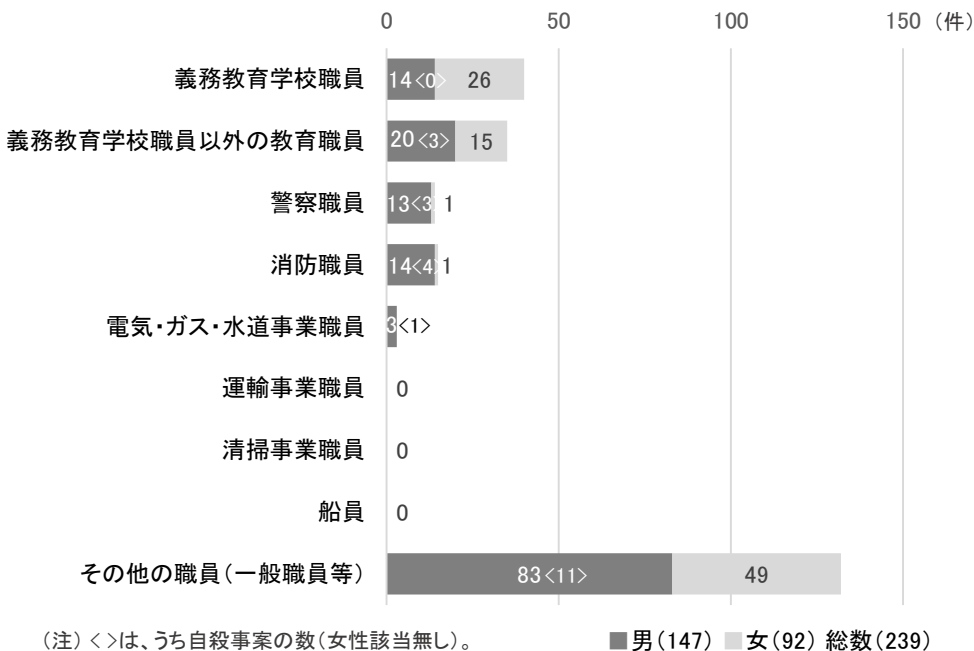
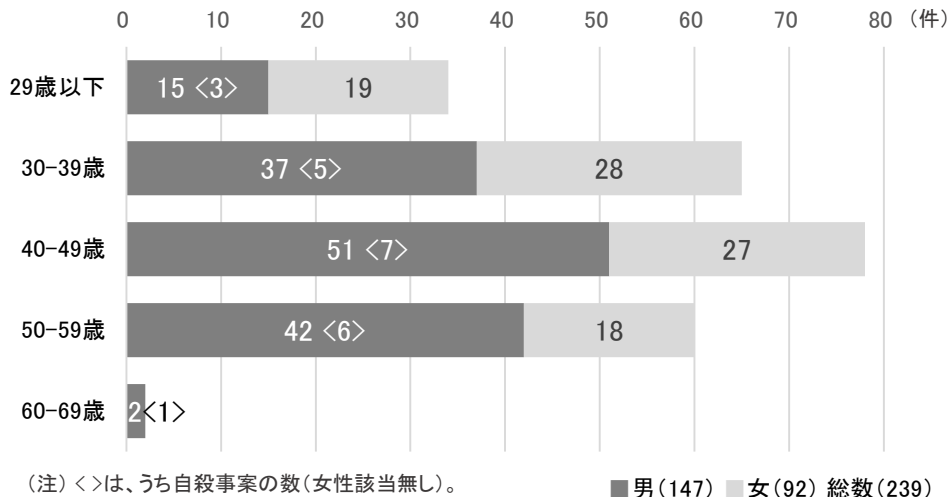
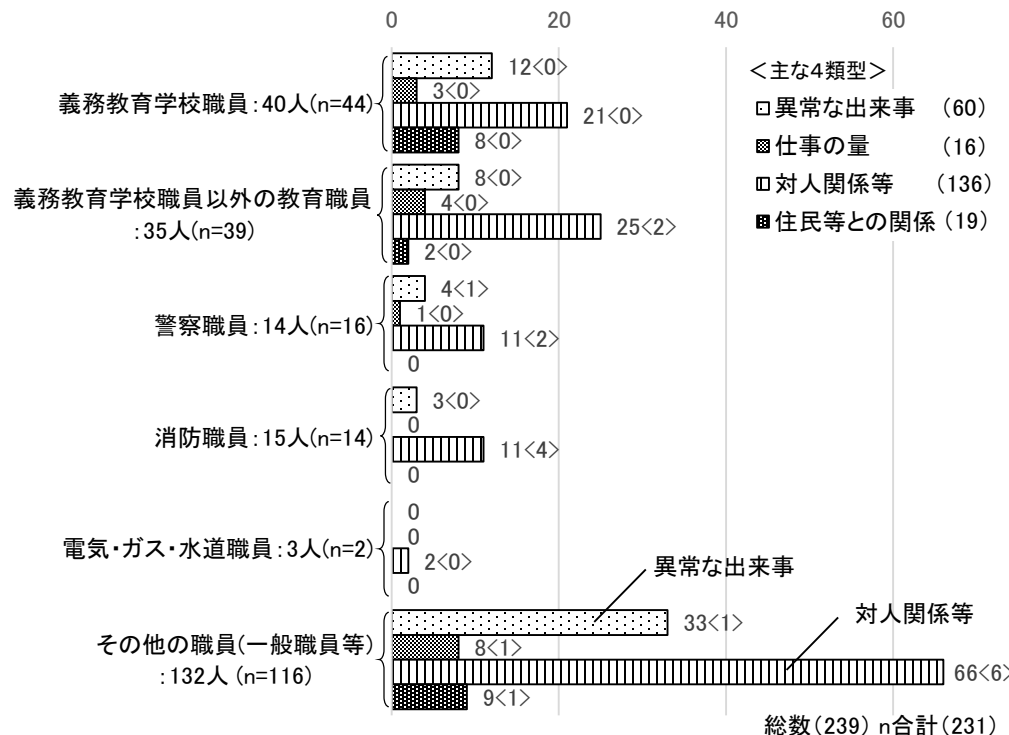


図2-2 職種別の主な過重負荷状況(重複回答)



(注) 1. 1件の事案に複数の過重負荷状況(n)がある場合は、それぞれを1件としてカウントしている(重複回答)。  
 2. <>は、うち自殺事案の数。  
 3. 図の過重負荷状況は、主な4類型のみを抽出して記載している。

発症時年齢では、「40～49歳」が最も多く78件、続いて「30～39歳」が65件、「50～59歳」が60件などであった。

職種別では、「その他の職員(一般職員等)」が最も多く132件、全体の約5割半であった。続いて「義務教育学校職員」が40件などであった。

職種別の主な過重負荷状況(重複回答)は、全ての職種で「対人関係等」が最も多く、続いて「異常な出来事」などであった。精神疾患239件のうち、「対人関係等」と「異常な出来事」が196件で全体の約8割を占めている。